

【週刊タバコの正体】

Vol.33 第1話～第3話

2016/01

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 33

(No. 452) 第1話 屋外のタバコ

—屋外のタバコは広範囲に広がります...

新しい年、2016年(平成28年)が始まりました。年末年始を含んだ冬休み中に、過ぎ去った年の反省と新しい年に向けた目標などを考えてみましたか。皆さんにとっては、これから始まる3学期は一年を締めくくる時期なので、進級や卒業に向けてしっかり学業に取り組んで下さい。

さて、大みそかやお正月は家族や友達と出かける機会が多かったと思います。大勢の人が集まる場所はたいてい禁煙となっているのですが、タバコのニオイがする事はなかったでしょうか。案外、建物内よりも屋外でタバコのニオイを感じることは多くありませんか。閉め切られた室内は禁煙があたり前になってきている反面、解放された屋外は自由に吸っていい場所のように思われているからでしょうね。

(No. 453) 第2話 火災原因

—「火の用心」は「タバコに用心」...

タバコを吸うためには火をつけなければいけません。そして、吸い終われば必ずその火を消さなければいけません。でも火がついたままのタバコが放置されればどうなるでしょう。その場所に燃えやすいものがあれば火災に発展する事は簡単に想像できます。

下の図は総務省消防庁が発表した平成26年度の火災の発生原因別のグラフです。全国で1年間に発生した約4万3千件の火災のうち、左から多い順に並んでいますが、なんと「タバコ」が原因の火災は4000件を超え2番目に多く、全体の約10%を占めています。

さらに、左のグラフを見て下さい。住宅火災で1006人が亡くなっていますが、そのうちタバコのせいで命を落とした人が161人もいるのです。

(No. 454) 第3話 タバコの税収

—健康を犠牲にして2兆円以上も納税されている事...

現在、日本では1箱(20本入り)430円で売られているタバコがほとんどです。そして、その430円のうち276.73円が税金だと言うことを知っているでしょうか。タバコ自体の価格は153.27円なのに税金の方がはるかに高いですね。その税率は64.4%にもなり消費税の8%に比べると、べらぼうに高いのです。こんなに高い税率なのに、平成26年度は年間1793億本も売れたそうです。いくら高くてもニコチン依存症の人々にとっては、タバコを吸わずにいられないので買い求めてしまうわけです。

そして、喫煙者は毎日必ず何本も吸うので、タバコは年間を通じて安定して売れます。そんなタバコに税金がかけられるようになったのは、今からざっと150年前の明治9年のことでした。

明治維新後、近代国家として歩み始めた日本の課題は、国家財源の確保でした。その財源としてタバコ税の徴収が始まったわけです。国民がタバコを買うことで国の経済成長を助けてきた歴史がありました。



新しい年、2016年(平成28年)が始まりました。年末年始を含んだ冬休み中に、過ぎ去った年の反省と新しい年に向けた目標などを考えてみましたか。皆さんにとっては、これから始まる3学期は一年を締めくくる時期なので、進級や卒業に向けてしっかり学業に取り組んで下さい。

さて、大みそかやお正月は家族や友達と出かける機会が多かったと思います。大勢の人が集まる場所はたいてい禁煙となっているのですが、タバコのニオイがする事はなかったでしょうか。案外、建物内よりも屋外でタバコのニオイを感じることは多くありませんか。閉め切られた室内は禁煙があたり前になってきている反面、解放された屋外は自由に吸っていい場所のように思われているからでしょうね。



しかし、屋外でのタバコの煙は風に乘って予想以上に広がります。例えば、左図にあるように上の階のベランダでタバコを吸うと、隣や下の階にニオイが届きます。そんな機会が頻繁になると洗濯物にニオイがついてしまいかも知れません。
他には、下図のように換気扇から漏れ出したタバコのニオイが風に乘って広がってしまふようなケースもあります。

こういう場面を紹介すると、喫煙者は「いたいどこでタバコを吸えばいいのかわからない」と感じている事でしょう。でも、タバコを必要としない人が大多数となった現在では、こんな事象も意識しなければいけないと思います。



有害な煙と不快なニオイを他人に巻き取らなくていいのはありません。そして、それを自覚しないままタバコを吸い始めてしまつてはいけません。

もっとも、そんな自覚があればタバコを吸い始めるわけはありませんよね。

産業デザイン科 奥田 恭久



現在、日本では1箱(20本入り)430円で売られているタバコがほとんどです。そして、その430円のうち276.73円が税金だと言うことを知っているでしょうか。タバコ自体の価格は153.27円なのに税金の方がはるかに高いですね。その税率は64.4%にもなり消費税の8%に比べると、べらぼうに高いのです。こんなに高い税率なのに、平成26年度は年間1793億本も売れたそうです。いくら高くてもニコチン依存症の人々にとっては、タバコを吸わずにいられないので買い求めてしまうわけです。



そして、喫煙者は毎日、何本も吸うので、タバコは年間を通じて安定して売れます。そんなタバコに税金がかけられるようになったのは、今からざっと150年前の明治9年のことでした。

明治維新後、近代国家として歩み始めた日本の課題は、国家財源の確保でした。その財源としてタバコ税の徴収が始まったわけです。国民がタバコを買うことで国の経済成長を助けてきた歴史がありました。

たばこの税 負担額合計: 276.73円/箱 (64.4%)

しかし不幸にも、当時はタバコが健康を害し寿命を縮める事は、ほとんど誰も知りませんでした。それから150年後、タバコの有害性が広く一般市民に認識されるようになって。現在でも、1793億本(約90億箱)ものタバコが売られているのですが、その税収は 90億箱 × 276円 = 2兆5千億円 位の額です。日本の喫煙者全員で年間2兆円を超える財源を確保しているのです。

このように見ると、タバコを買って吸う喫煙者には感謝すべきだと感じている。い、すね、しかし、そう単純に考えていいのでしょうか。ニコチン依存症の人がタバコを買い、吸い続ける事は国民の健康や寿命を犠牲にして税金を納めさせているようなものだと考えられませんか。

人々の健康を優先すればタバコは販売するべきではないと思います。しかし、多くの喫煙者の生活や、タバコの税収など150年続いたタバコ販売に頼る世の中での生活の事を考えると、これは、単純には販売をやめるにはいかないでしょう。50年後100年後どうなるのか、若い世代が育ち、れる事を期待しています。

産業デザイン科 奥田 恭久



毎週火曜日発行



URL: http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

